

アルミ水素「安価」「安全」 事業検討会議、PRの概念図

北陸

2019/2/26 19:34 | 日本経済新聞 電子版

🔖 保存 📧 共有 🖨️ 印刷 🗨️ ツイート 📌 f その他

アルミを原料とする水素を原油の代替エネルギーとして活用しようと研究を進める「アルミ水素エネルギー事業検討会議」は、アルミ水素の事業としての優位性を示す概念図を作製した。今後は将来像に向けた調査などに取り組み、政府が本格的な水素社会の確立を目指す2040年に向けた研究を続ける。

概念図「アルミ水素の将来性」では、海外から原料となるアルミチップを輸入、国内で製品化された後のアルミをリサイクルして水素を発生させ、電気自動車（EV）、水素ステーションに活用する流れを図式化。一方で、水素発生の際に生じる水酸化アルミを海外に戻しアルミに還元する循環の可能性も示した。



🔍 画像の拡大

「アルミ水素の将来性」を概念図として示した

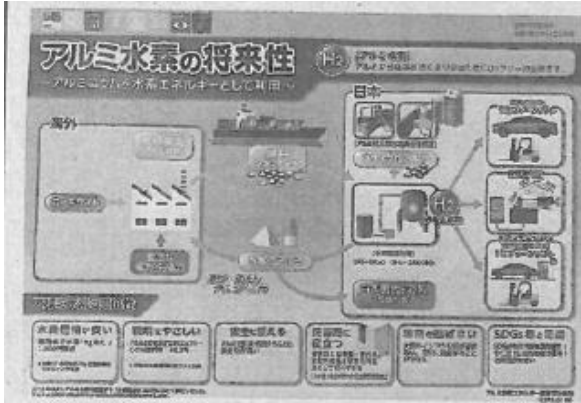
優位性としては、アルミ水素の価格が現時点で1キログラムあたり1000円程度で安価であるほか、水素発生の際に二酸化炭素（CO2）が削減できるため環境に優しく、アルミの形で貯蔵・輸送が可能で安全性が高いことなどをあげた。

15年に発足した同会議は、建材大手の三協立山、廃アルミからの水素発生装置を開発したアルハイテック（富山県高岡市）、産業廃棄物向け焼却炉を製造するアクトリー（石川県白山市）など10事業体が参加。三協立山の花木悟・三協マテリアル社事業役員は「アルミ製品はリサイクルを前提に生産しているが、廃材も出てくるので水素という別の形での再活用には期待したい。今後はエネルギーの効率性や経済性に見合うかどうかを実証していきたい」と話す。

アルミから水素「安価」「安全」

アルミを原料とする水素を原油の代替エネルギーとして活用しようと建材大手の三協立山など10事業者が研究を進める

「アルミ水素の将来性」の概念図



三協立山など 優位性PRへ概念図

「アルミ水素エネルギー事業検討会議」は、アルミ水素の事業としての優位性を示す概念図を作製した。今後は将来像に向けた調査などに取り組み、政府が本格的な水素社会確立を目指す2040年に向けた研究を続ける。

概念図「アルミ水素の将来性」では、海外から原料となるアルミチップを輸入、国内で製品化された後のアルミをリサイクルして水素を発生させ、電気自動車（EV）、水素ステーションに活用する流れを図式化。一方で、水素発生の際に生じる水酸化アルミを海外に

戻しアルミに還元する循環の可能性も示した。優位性としては、アルミ水素の価格が現時点で1キロあたり1000円程度で安価であるほか、水素発生の際に二酸化炭素（CO₂）が削減でき

るため環境に優しく、アルミの形で貯蔵・輸送が可能で安全性が高いことなどをあげた。

15年に発足した同会議は三協立山や、廃アルミからの水素発生装置を開発したアルハイテック（富山県高岡市）、産業廃棄物向け焼却炉を製造するアクトリー（石川県白山市）など10事業者が参加。三協立山の花木悟・三協マテリアル社事業役員は「アルミ製品はリサイクルを前提に生産しているが、廃材も出てくるので水素という別の形での再利用には期待したい。今後はエネルギーの効率性や経済性に見合うかどうかを裏証していきたい」と話す。